

# 広島大学病院における 入院患者の減薬状況調査

## ○ 研究の意義・目的

近年、临床上不要な薬剤が処方され、多剤併用により有害事象を生じるポリファーマシーが問題となっています。広島大学病院（以下、当院）では、不要な薬剤を中止し、有害事象発生リスクを軽減するために、2018年6月より、プレアボイド報告に当院独自の区分（以下、プレアボイド4）を設け入力を開始しました。本研究では、病棟薬剤師の介入により減薬となった薬剤、減薬の発端、他職種および患者による減薬の依頼状況について調査します。また、当院の病棟専従薬剤師へ減薬に関するアンケート調査を実施します。本研究により、減薬前後における問題点を明らかにすることで、経験年数の少ない薬剤師でも実施できる方法を策定します。

## ○ 研究期間 承認日～2025年12月31日

## ○ 研究方法

2018年6月1日から2018年12月31日までに、広島大学病院において入院となった患者のうち、临床上必要とされる以上に薬剤が処方されていると病棟薬剤師が判断し、薬剤師の介入により使用薬剤が減薬となった患者を対象とします。

本研究は、全て診療録（カルテ）情報、薬剤によるプレアボイド報告内容を転記して行います。

プレアボイド報告から転記する内容は、報告件数、減薬内容、減薬の発端です。カルテからは対象患者の入院期間、年齢、性別について後方的に調査します。また、当院薬剤師の減薬に関する意識調査をするために、アンケートを実施します。

（個人が特定出来る情報は転記しません）

## ○ 試料・情報の管理責任者 広島大学病院薬剤部 教授 松尾裕彰

## ○ 個人情報の保護

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

\* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 電話：082-257-5579

広島大学病院薬剤部 教授 松尾裕彰（研究責任者）  
薬剤師 土井 舞子（担当者）